

## 【優秀賞】

団体名	NPO 法人ひょうご知的障害者自立就業支援ネット協生
活動の内容（概要）	<p>「協生」は、障害を持った生徒を職業訓練生として代表者が経営する飲食店等に受け入れ、実際に社会人として必要なビジネスマナーの訓練やカフェでの接客、調理補助、洗い場などの作業訓練を実施している。</p> <p>職業安定所や特別支援学校、就業・生活支援センター等と緊密に連携し、一定レベルに達した生徒は他の企業に紹介し、就業が実現できるように支援している。特に本人の特性を考慮し、能力に応じた就労が実現できるように、家庭および関係機関と協議しながら取り組んでいる。</p> <p>「誰もが人としての個性と特性を生かし、働く喜びを感じられる仕事や職場づくりをしたい」との考えのもと、県内の特別支援学校や兵庫県立障害者高等技術専門学院等の在学学生および障がいのある一般の方への実習・職業訓練・就労支援を続けている。障害やセミナーでの講話など、障害者の就労やその理解を広める啓発活動も展開している。</p>

### 受賞理由

- ビジネスマナーや接客、調理作業等をとおして、仕事をするために必要な能力が身に付けられる内容となっており、実際に一般就労へつながっている。参加者のスキルや社会進出への支援だけでなく、障害者への理解を深める活動である。
- 障害者による社会貢献や地域の啓発活動を通して、障害者が主体的に「どう生きるか」を模索し、生きがいを見つけることができる取組である。
- 障害者の社会参加促進や就労機会拡大に向け、組織的に関連団体と協働した取組は素晴らしい。
- 障害者の就業が極めて厳しい状況にある中で、就業に必要なスキルを培うことや健常者とともに働くことなどを通して、体験のみならず就労に結びついている点は高く評価できる。

### 連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

兵庫県立あわじ特別支援学校（本校）

※本校は平成 23 年 4 月に兵庫県立淡路特別支援学校と兵庫県立淡路聴覚特別支援学校が発展的統合し、校名が兵庫県立あわじ特別支援学校となった。

兵庫県立高等特別支援学校、兵庫県立障害者高等技術専門学院、洲本市内の中学校、洲本市教育委員会

【行政】

淡路県民局、兵庫県労働局、洲本職業安定所

【地域・社会】

淡路障害者就業・生活支援センター

【産業界】

洲本市商工会議所

## 活動開始の経緯

- 1997年 代表運営の飲食事業において、地元福祉作業所のクッキーの委託販売開始。
- 2006年 代表運営の飲食事業において、地元中学校に在籍する発達障害児の職場体験を受入れ開始。洲本職業安定所の紹介で知的障害者1名の職場実習受入れ、その後雇用。
- 2007年 兵庫県立障害者高等技術専門学院の委託訓練開始。代表運営の飲食事業において、特別支援学校生徒の職場実習、現場見学等の受入れ開始。
- 2008年 「NPO法人ひょうご知的障害者自立就労支援ネット協生」を設立し、障害者就労の機会拡大に向け、実習・訓練・雇用に取り組むとともに他企業への紹介を行う。美術展の開催や講演等をとおり、障害者就労の社会啓発活動を続けている。
- 2013年 第37回井植文化賞（地域活動部門）を「NPO法人ひょうご知的障害者自立就労支援ネット協生」が受賞。
- 2014年 井植文化賞の副賞の大半を本校の就労支援に関わる備品等に役立てるためNPOの事業として寄贈。

## 「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 「協生」は、障害を持った生徒を職業訓練生として代表者が経営する飲食店等に受け入れ、実際に社会人として必要なビジネスマナーの訓練やカフェでの接客、調理補助、洗い場などの作業訓練を実施している。
- 職業安定所や特別支援学校、就業・生活支援センター等と緊密に連携し、一定レベルに達した生徒は他の企業に紹介し、就業が実現できるように支援している。特に本人の特性を考慮し、能力に応じた就労が実現できるように、家庭および関係機関と協議しながら取り組んでいる。
- 「誰もが人としての個性と特性を生かし、働く喜びを感じられる仕事や職場づくりをしたい」との考えのもと、県内の特別支援学校や兵庫県立障害者高等技術専門学院等の在学生および障がいのある一般の方への実習・職業訓練・就労支援を続けている。
- 障害者美術展の開催やセミナーでの講話など、障害者の就労やその理解を広める啓発活動も展開している。



意欲的に仕事に取り組む従業員たち

## 「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 障害者、特に知的障害者と社会との交流を目的とし、2009年度より毎年「障害者週間」に合わせて、兵庫県立淡路文化会館と連携し、淡路障害者美術作品展を開催している。一昨年度は「生きる」をテーマに、一般事業所および就労継続支援B型施設などで働く障害者の姿を正面からとらえた写真展を兵庫県立淡路文化会館と神戸の兵庫県立のじぎく会館で催した。
- 就労支援については、平成1997年に淡路島内の作業所で作ったクッキーを代表者が運営する軽食店で委託販売を開始した。また、2006年に地元の中学校から発達障害児の方の職場体験を受け入れ、さらに同年 職安・特別支援学校等からの紹介による障害者の実習や雇用を開始し、平成2008年には障害者就労を拡大に向け新たな事業所を開設した。賛同する他企業関係者等と障害者の就業を支援する協生を設立し、就労機会拡大に向け活動を続けている。

### 「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 代表が経営するカフェで実際に就業訓練を行っているが、障害特性が様々で、当初は支援することが非常に難しく、就労に繋げることができない場合もあった。このような中、代表やスタッフがスキルアップするための様々な研修会に出席しスキルを磨くとともに、障害者職業生活相談員の資格を取得するなど、受入体制を整えた。また、専門家からアドバイスを受けながら職場環境を整えていった。
- 代表の企業では現在、障害者の常用雇用5名（全従業員は27名）となっており、特別支援学校等からの訓練実習生は随時受け入れ（年間約10ヶ月は常時）、現在も兵庫県立あわじ特別支援学校（以下『本校』と表記）、高等特別支援学校の生徒が実習を行っている。
- 業務内容としては、調理作業、加工作業、洗い場作業等を行い、訓練実習生には、訓練校と連携したカリキュラムのもと、ビジネスマナー等を実践し就労の実現に向けた学習の支援を頂いている。訓練を受けたことで（他の企業に紹介頂いたケースも含め）、やりがいを感じ、自信につながり、一般就労へ繋がったケースが数多くある。



生徒の職場体験の様子

### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

- 「協生」が運営するカフェでは、現在12名（内障害者5名）が勤務している。健常者と障害者が共に働く職場の大切さを社会に広めるため、障害者を固定した職種・職場に決めて勤務させるのではなく、本人の特性に合った職種・職場での勤務を実行している。代表は「今後、これがごく当たり前の社会になるよう、職場実習の受け入れを継続するとともに、キャリアアップを図り雇用を深めていきたい」と熱く語られている。
- 淡路島内は、都市部に比べ企業や産業が少なく障害者の就労が困難な地域であり、教育機関や労働機関、行政、福祉施設等と連携・協力して、障害者の社会参加や就労の支援し、障害者への理解を広める活動を継続して実践されている。このように、「協生」は、障害者とその就労に関わる関係者にとって心強い存在となっている。雇用率の達成だけで満足せず、それを越えたところに、社会貢献があると考え実践され、学校や訓練校、職安、障害者本人やその保護者の要望に応え、実習の受け入れ、連携しての訓練、自らの会社での雇用や他企業への紹介などを継続的に行うとともに、美術展や講演等も通じ社会啓発活動を続けられている。
- これまでの実践が評価され、昨年秋、第37回井植文化賞（地域活動部門）を受賞している。

### 活動実績

- 障害のある生徒の現場実習や委託訓練では、平成2006年度以降、本校（統合前の兵庫県立淡路特別支援学校含む）と兵庫県立高等特別支援学校の在校生の現場実習を受け入れて頂いている。
- 職業安定所や訓練校、当事者の保護者の依頼も受け、実習や訓練の受け入れを行っている。

- ・(有)柿原鶏卵販売での雇用については、これまで統合前の兵庫県立淡路特別支援学校が2名(1名は後に、別の所に転職したがその際も手厚い支援を頂いた)、本校が1名、兵庫県立高等特別支援学校が1名、特別支援学校以外出身の障害者も自社で常用雇用されている。また、実習、訓練や職業紹介を頂いたおかげで別の企業等で、一般就労に結びついたケースも本校で3名、統合前の兵庫県立淡路特別支援学校で4名ある。
- ・現場実習以外では、毎年本校の高等部生徒の親子現場見学で職場見学でお世話になりとともに講話も行って頂いている。
- ・本校の職員研修で柿原氏に講演頂いたこともある。
- ・協生の美術展には、本校在校生や卒業生の作品を展示頂いており、生徒の活躍の場を提供していただいている。
- ・福祉関係団体における各種セミナー等での講演を毎年実施され、地元中学校の職場体験等も続けられている。

#### **学校現場の評価・感想・コメント**

NPO 法人の協生と代表の柿原氏については、障害者の就労や社会参加への淡路島内で理解と支援を頂いている存在として、平成 20 年頃から本校を含めた教育現場や関係機関から高く評価されてきました。本校との関わりについては、現場実習の受け入れや雇用、他社への紹介などの就労支援の他、親子現場見学での講話、就労支援についての助言と情報交換など年々その連携を深めてきました。そして、今年度はさらに、本校での就労支援のために寄付まで頂き、職員や生徒、保護者全ての学校関係者が感謝の念を抱き、その有効活用に努めていきたいと思っています。

#### **直接連携・協働していない関係諸機関(行政・産業・地域団体等)からの評価・感想・コメントなど**

「協生」と代表の柿原氏の活動については、障害者の就労・社会参加への支援者として、これまでも雑誌や新聞等で取り上げられ、淡路島内のみならず兵庫県内外の障害者の就労支援に関わる関係機関に高く評価されて来ました。さらに昨年度には、第 37 回井植文化賞の〈地域活動部門〉を受賞し、全国的にもその功績が評価されています。特に淡路島内では、障害者とその保護者、関係機関の担当者のみならず障害者の就労・社会参加に関心を抱く人々にも、障害者就労の先駆者・応援者として広く知られています。